



日本のユーフォニアムとその歴史展

9月17日から25日まで、日本のユーフォニアムの歴史を紹介する企画展に協力しました。

ユーフォニアムは明治時代に薩摩の軍楽隊が欧州から導入して始まり、その後軍楽隊OBなどが学校等でも指導を行い全国に広がってゆきました。当初の楽器は輸入品でしたが、今では国産品も世界レベルまで発達しており、この約150年の歴史を実物楽器28点などで辿りました。

会場で行われたギャラリートークも盛況で、多くの方に楽しんで頂くと共に、三笠艦内に常設してある音楽隊の楽器や楽譜にも改めて注目していただきました。



初日の9月17日には、甲飛喇叭隊の隊員により、幕末から終戦までの金管楽器の種類や国内製造について紹介がありました。続いて演奏に移り、「喇叭で辿る軍隊生活の1日」と題して総員起こしから軍艦の各種日課、最後は巡検の喇叭演奏を行い、後甲板では「艦旗掲揚の再現展示」が行われました。



9月23日には警察・消防音楽隊OB主体の「ユーフォニアム・チューバTULE Eふれんず」によるアンサンブル演奏が行われました。楽曲は行進曲や艦にちなんだもの、アニメの主題歌など約20曲で来艦者にも楽しんで頂きました。

